

情報処理学会誌の表紙に「初音ミク」が登場して、皆様、驚いたのではないのでしょうか。本特集「CGMの現在と未来：初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロの切り拓いた世界」をゲストエディタとして企画した私ですら、「表紙に初音ミクを載せましょう！」とご提案を受けたときには、「本当に載せるんですか?!」と驚きました。しかし、初音ミクは単なるキャラクタではなく、このCGM現象の象徴です。本分野の研究成果である歌声合成ソフトウェアです。近年注目を集める活発な創作活動と連鎖反応の源泉である初音ミクならば、情報処理技術が切り拓く明るい未来の象徴としても本学会誌の表紙に相応しいと考え、私も強く賛同しました。本特集を読んだ後に表紙を見れば、ご納得いただけるのではないかと思います。学会関係者の柔軟な発想と、掲載をご快諾頂いた伊藤博之社長に感謝いたします。

初音ミクについてアツくポジティブに語る大学の先生や研究者が日に日に増えているように感じます。それが、キャラクタの顔や声が好きで語っているのだと誤解を受けた場面が過去にあったかもしれませんが、このCGM現象の素晴らしさに魅了されたからこそ語っているのだということを、本特集を通じて多くの方々に知っていただければ幸いです。ニコニコ動画を研究者が絶賛する場合も同様で、動画の中身だけでなく、その先進性や現象、文化に魅了されているのです。

若い人に情報系の人気がなくなりつつある、という話を聞くことがあります。音楽情報処理や歌声情報処理、あるいは初音ミク周辺の現象を見ている限り、研究・技術への関心は高く、熱気に溢れています。私は研究成果のデモビデオをニコニコ動画に投稿することを呼びかけ、我々自身も実践中です(たとえば<http://www.nicovideo.jp/mylist/7012071/>)。それは研究成果を広く知っていただく重要性、人の記憶に残す重要性からですが、ニコニコ動画を日常的に観ている中・高・大学生にアピールできるのも大きな理由です。情報系の研究分野や職業の魅力に気付いて、動画をきっかけに将来の進路の選択肢として考え始めてもらえればと願っています。そういう意味でも、社会に開かれた学会として、近年活発に実践されている研究発表の無料ライブ動画中継を拡大する必要性は高まっていますし、そこで生き生きと楽しんでいる情報系の研究者・技術者の姿を見て、あこがれて情報系を目指す人たちが増えていくことでしょう。

最後に、第一人者として日々新たなことに挑戦する大変お忙しい日々を送る中、執筆をご快諾いただき、CGM現象の魅力と素晴らしさをさまざまな角度から分かりやすく解説いただいた執筆者の皆様に、深く御礼申し上げます。本特集が明るい未来を切り拓く一助となることを心から願っています。

(後藤真孝/本特集ゲストエディタ)

次号(6月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」コンピュータグラフィックスの新展開

写實的レンダリング/自然現象のビジュアルシミュレーション/コンピューターショナルフォトグラフィ/大量映像の分析と利用に基づく映像合成/テクスチャ合成技術の新たな応用と展開/モーションキャプチャデータの高度利用—人の動きの編集から即応的生成へ—/プロダクションワークフローとCG表現技術

連載：古機巡礼 / 二進伝心 / 細川茂樹 アプリ開発プロジェクト

教育コーナー：べた語義

コラム：巻頭コラム / シニアコラム：IT好き放題

